



# 取扱説明書

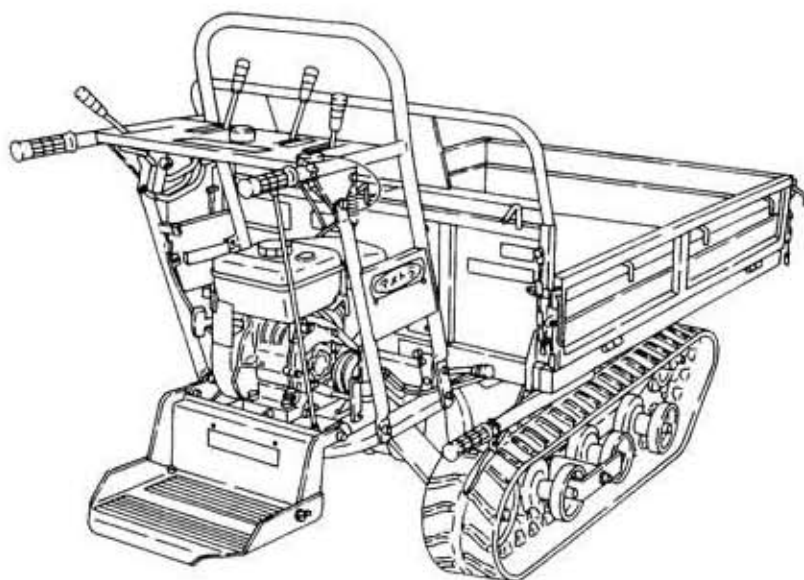


当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。お読みになった後も必ず保存してください。

機種名

# SC-20WB

## マメトラクローラカート



マメトラ農機株式会社

# はじめに

マメトラSC-20Wをお買い上げいただき  
ありがとうございます。

この取扱説明書は「マメトラSC-20W」の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお取扱いいただき、最良の状態でご使用ください。

この説明書は、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように一定の場所に保管してください。可能であれば本製品の近くに保管してください。

この製品を貸与される場合は、この説明書を添えてお貸しください。

この製品を万一損傷されて、修理を希望される場合には、この説明書を製品に添えて、速やかにお買い上げいただいた販売店または本社の営業所にご相談ください。

なお、製品の一部または使用部品を、品質の向上、性能の向上あるいは安全性の向上等を図るために、変更することがあります。その際には、この説明書の内容、写真並びにイラスト等の一部が製品と一致しない場合がありますのでご了承ください。




ご不明のことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお近くの特約店・販売店にご相談ください。

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

## ◆注意表示について

本取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

-  **危険** その注意事項に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
-  **警告** その注意事項に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
-  **注意** その注意事項に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

# サービスと保証について

## ☆保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

## ☆アフターサービスについて

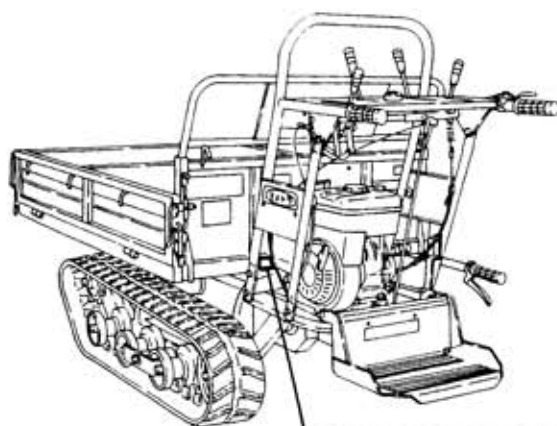
機械の調子が悪いときに点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社営業所までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式名・区分
- 機体番号・エンジンの場合エンジン番号
- 故障内容（できるだけ詳しく）

## ☆補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、納期および価格についてご相談させていただきます。



〔例〕

農業機械の種類	動力運搬車
型式名	マメトラ SC-20WB
区分	
エンジンの型式	GB180LN-231
機体番号	

マメトラ農機株式会社

8MA 0547 002

## ☆取扱説明書について

本機取扱説明書を紛失、破損した場合にコードNO,G84 9001 001でご注文ください。

# 目次

はじめに .....	I
サービスと保証について .....	II
目次 .....	1
1 安全作業のための心得 .....	2
2 安全マークの貼付位置 .....	6
3 各部の名称とはたらき .....	8
3-1 操作部 .....	8
3-2 荷台部 .....	9
4 運転開始前の準備と注意 .....	10
5 さあ、運転開始です .....	12
5-1 エンジン始動のしかた .....	12
5-2 発進のしかた .....	14
5-3 変速のしかた .....	14
5-4 旋回のしかた .....	16
5-5 駐・停車のしかた .....	16
5-6 エンジンの停止 .....	18
5-7 トラック等への積み込みと積み降ろしのしかた .....	18
5-8 ステップの取扱 .....	20
6 荷台の取扱 .....	22
6-1 荷台の拡張 .....	22
6-2 荷台の上下 .....	22
7 作業が終わったら、必ず手入れを .....	24
7-1 作業をしたら、そのたびに手入れを .....	24
7-2 定期点検と整備 .....	24
(1) エンジンオイルの点検と補給 .....	25
(2) エンジンオイルの交換 .....	25
(3) ミッションオイルの交換 .....	26
(4) エアークリーナの手入れ .....	26
(5) 点火プラグの調節と交換 .....	28
(6) ストレナーの手入れ .....	28
(7) 燃料パイプの交換 .....	28
(8) レバー類作動の点検と調整 .....	30
(9) 注油とグリースアップ .....	34
(10) クローラの履帯の張りの調整 .....	34
8 長期間使用しないときの格納のしかた .....	36
9 機械が不調の場合の対策 .....	38
10 特長 .....	40
11 仕様 .....	41
12 電気配線図 .....	42
● 安全確認カード	

# 1 安全作業のための心得

## ■本機を使用するにあたって

### 使用する人の条件

次のような項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき
- 妊娠しているとき
- 子供の方
- 取扱方法を熟知していない人



### 使用する人の服装

機械に巻き込まれる事故を予防するため、はち巻き・首巻き・腰タオルをしないでください。また、滑って転倒する事故を予防するため、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、だぶつきの無い服装をしてください。



### 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。



### 機械の改造厳禁

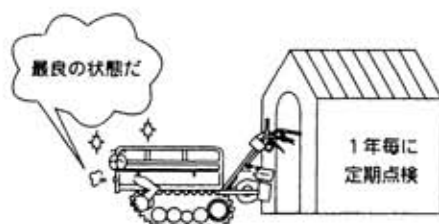
純正部品や指定以外のアタッチメントを取付けしないでください。また、機械を改造しないでください。



## ■点検整備をしてください

### 1年毎に定期点検整備を

機械の整備不良による不具合や事故を予防するために、1年毎に定期点検・整備を受け各部の保守をしてください。特に燃料パイプや電気配線は、2年毎に交換して、機械が最良の状態、安全に作業ができるようにしましょう。



### 点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備をおこなってください。特に、クラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。



## ■点検整備をしてください

### 点検・整備・掃除をするときは

点検・整備、またはアタッチメントの脱着・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり動いたりしない平坦で安定した場所を選び、エンジンを止めてください。また、誤ってエンジンが始動することのないよう燃料コックを閉にし、完全な停止状態で過熱部分が十分に冷めていることを確認してからおこなってください。



### 排気ガスには十分に注意

屋内などでエンジンを始動する場合、排気ガスによる中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所でおこなうようにし、十分に換気をおこなってください。



### カバー類は必ず取付ける

ベルトカバーなどの防護装置を取外す場合は、必ずエンジンを止め、完全な停止状態を確認してからおこなってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。



### 給油・注油するときは

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、火傷や火災の危険がありますので絶対に給油・注油しないでください。また、給油中はタバコや裸火照明などの火気は厳禁です。



### 長期格納するときは

火災などを予防すると共に、燃料の変質による不具合を防止するために、燃料タンク・気化器内の燃料を抜き出し、バッテリーを取外して保管してください。



### 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

### エンジンの始動や発進するときには

クラッチを【切】り、変速レバーを【中立】にし、周囲の人に合図してからエンジンを始動してください。周囲の人に危害を加えたり転倒や衝突したりしないように周囲の安全を確かめ、急発進ないように徐々に発進してください。

# 1 安全作業ための心得

## ■作業・移動をするとき

### 傾斜地での作業は、注意してください

10度以上の傾斜地での作業は、危険を伴いますから無理な作業はやらないように心掛けてください。



### 過大な荷物は積み込みしてはいけません

この運搬車の最大積載量は500kgですので、過大な荷物は積み込まないようにしてください。



### 積荷をするときは

積荷を高く積みますと、機械の重心位置が高くなり転倒しやすくなります。特に傾斜地や凸凹な所では転倒の危険があります。



### 機械から離れるときには

機械から離れるときには、平坦で安定した場所におき、エンジンを止め、各部が完全な停止状態になっていることを確認してください。やむを得ず傾斜地に置くときは、必ず車止めをしてください。



### 人は乗せてはなりません

荷台等には、人は乗せてはなりません。一般道路での通行はしてはいけません。



### 後進しながら作業するときは

転倒しないように足元に十分に注意し、後方に障害物がないか確認して後方の障害物と本機との間に挟まれないようにしてください。特に、ハウス内では、壁や支柱との間に挟まれたりすることの無いようにしてください。

ロータリ部が作業者の直前に来るような後進作業は危険です。ハンドルを180°回転して作業をしてください。



## ■作業・移動をするとき

### 移動するときは

坂道・凸凹の激しい道・曲がり角・そばに溝がある道・路肩の弱い道などでは、スピードを落とし、最も安全に通行できる場所を選んで通ってください。

また、焚き火や排ワラを燃やしている近くは走行しないでください。事故や火災の原因となります。



### 急な発進・停止・旋回、スピードの出しすぎ 禁止

スピードを出しすぎたり、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけではなく、機械の寿命も縮めますのでおこなわないでください。



### わき見運転・片手運転禁止

ハンドルやクラッチは正しく操作し、わき見や片手での運転はしないでください。



### 坂道では

坂道では、操向クラッチレバーを操作すると、機械が思わぬ方向に旋回してしまうことがありますので操向クラッチレバーを使わずにハンドルを振って方向転換をしてください。



### 溝や畦を横断したり、軟弱な場所を通るときには

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずに通ってください。

もし、落ち込んだ場合には、無理に脱出しようとせず、先ず状況判断して適切な処置を講じてください。



### トラックなどに積込み・積降しするときは

平坦で交通の安全な場所で、トラックなどが移動しないようにエンジンを止め、サイドブレーキをかけ車止めをし、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずにおこなってください。

また、登るときには前進、降りるときには後進でおこなってください。さらに、積込んだときには、本機に車止めをし、十分に強度あるロープでトラックに確実に固定してください。

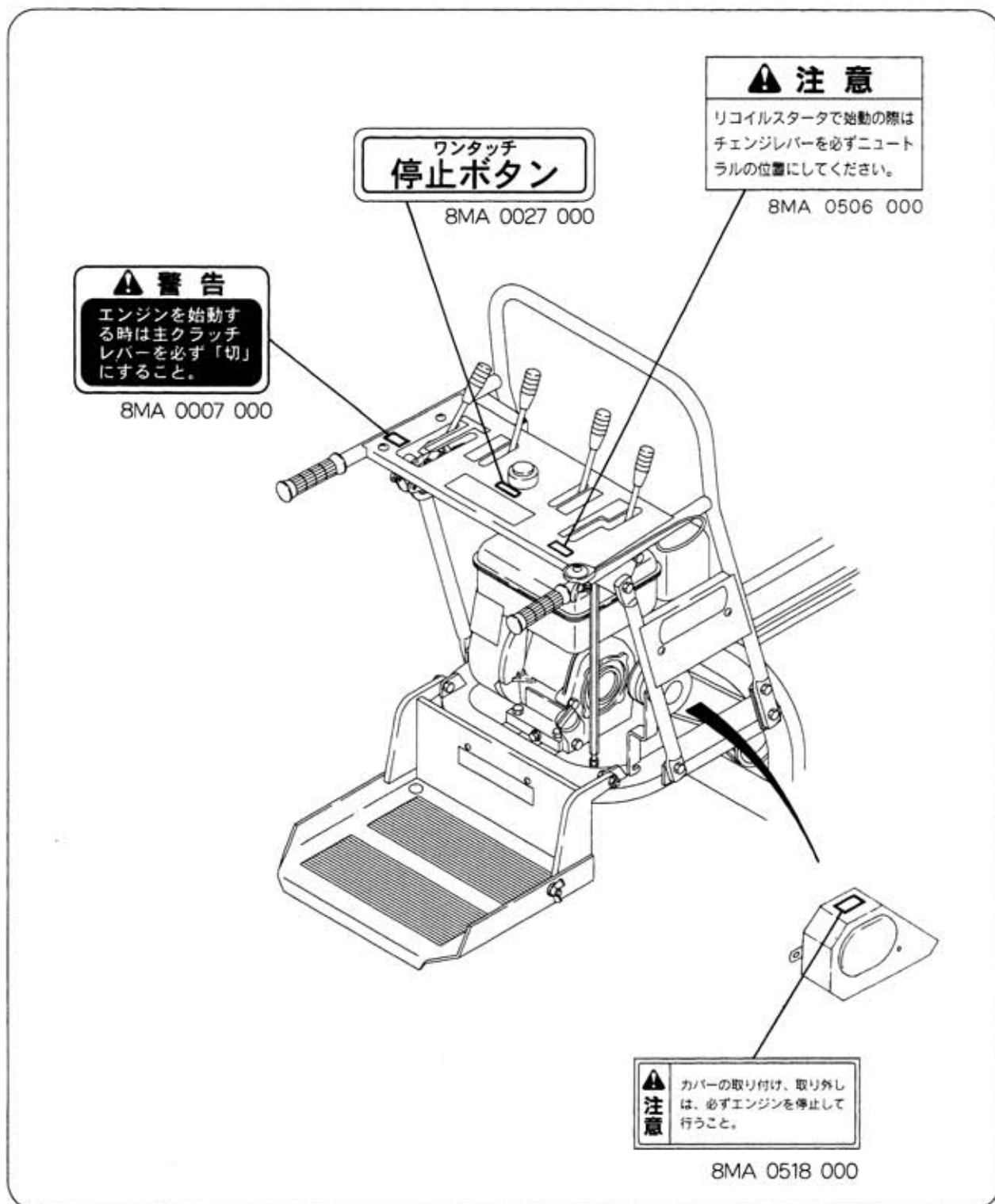




## 2 安全標識の貼付位置

安全に作業をしていただくために、最低限に守っていただきたい注意事項を記載したラベルを機械に貼付けてあります。

▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。ラベルが汚染したり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。



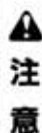


**注意**

**安全に作業をする為に次のことがらを必ず守ってください。**

- 取扱説明書を良く理解してから、作業を開始してください。本機の取扱法を熟知していない人は、使用しないでください。
- 過労、病気、その他の理由で、正常な運転操作が困難と思われる時は、機械作業に従事しないでください。
- 作業に適した作業衣、帽子を着用して衣服の一部や頭髮、手拭等が機械に巻き込まれないようにしてください。
- 荷台等には、人は乗せてはなりません。機械の改造はみだりに行ってはいけません。
- この運搬車は、一般道路での通行は禁止されています。

8MA 0043 000

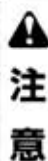


**注意**

**エアクリーナーの取り扱い**

常に汚れを点検してください。エレメントが目詰まりしますとチョーク状態になり燃料消費が多くなったり、パワーが弱くなりエンジントラブルの原因になりますので、汚れがひどくなったら早めに交換してください。

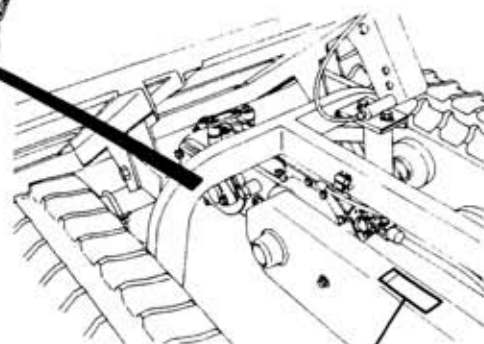
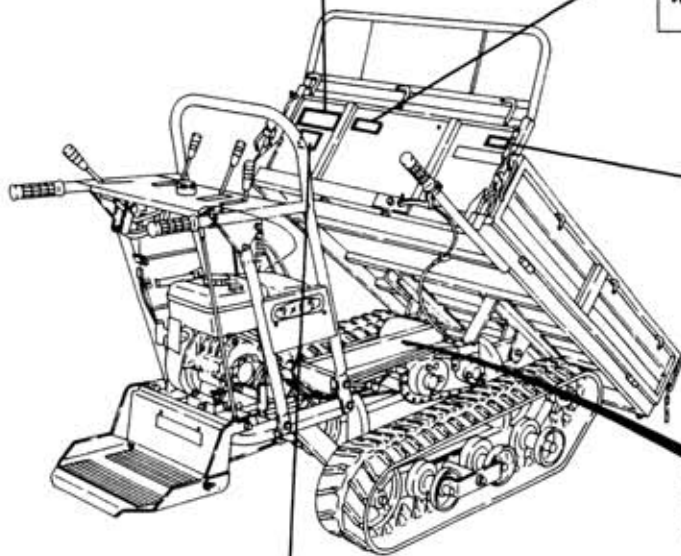
8MA 0505 000



**注意**

積みすぎは、サイドクラッチやミッション、シャーシ系統の故障の原因になります。適正な積載量で使用してください。

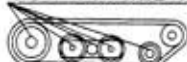
8MA 0062 000



**運転前の点検給油と注意**

1. 運転前にエンジンオイルの点検をしてください。
2. クローラホイルのニップルよりグリスポンプでグリスを補給してください。(10時間使用毎に給油)
3. 燃料の補給をする時は必ずエンジンを停止してください。
4. 主クラッチ、ブレーキワイヤ、サイドクラッチワイヤ等には適時オイルを補給してください。

グリスニップル左右各5ヶ



8MA 0112 000



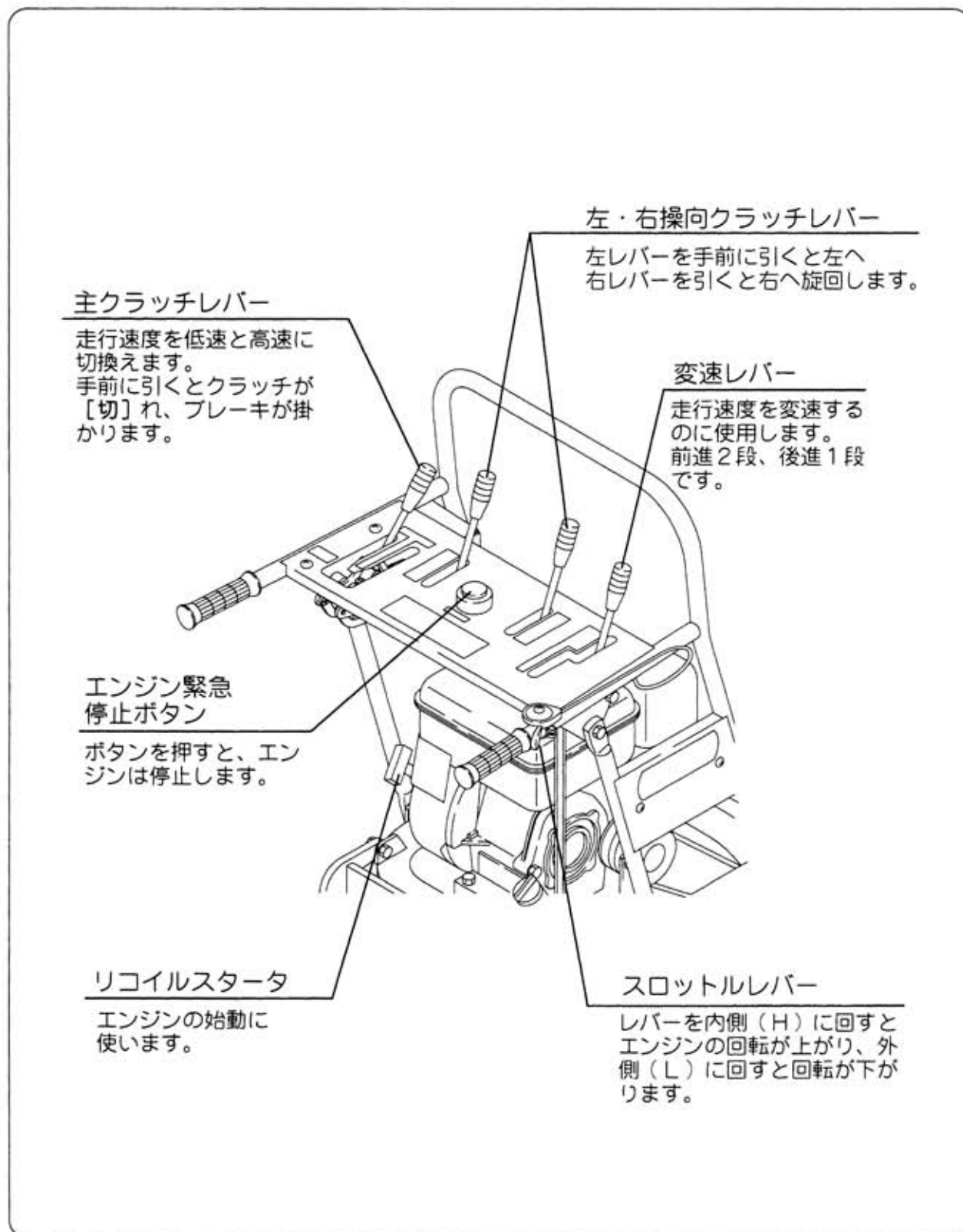
**注意**

カバーの取り付け、取り外しは、必ずエンジンを停止して行うこと。

8MA 0518 000

# 3 各部の名称とはたらき

## 3-1 操作部



## 3-2 荷台部

### 荷台ロックレバー

荷台をシャーシに固定したり解除したりするときに用います。

### ダンプロッククラッチ

クラッチを握ると荷台を傾斜固定しているロックピンがロックガイドアームから離れ、クラッチを離してロックピンを任意の孔に入れて、荷台を傾斜固定します。

### 荷台上下ハンドル

クラッチと共に握り、荷台を上下するのに用います。

### ロックガイドアーム

荷台を3段階の傾斜角度に切り換えることができます。

### 面板固定レバー

前面板、側板を解放したり、固定したりするときに用います。

### 面板解放規制チェーン

前面板・側板を解放するとき、希望の角度で固定するのに用います。

### ロックピン

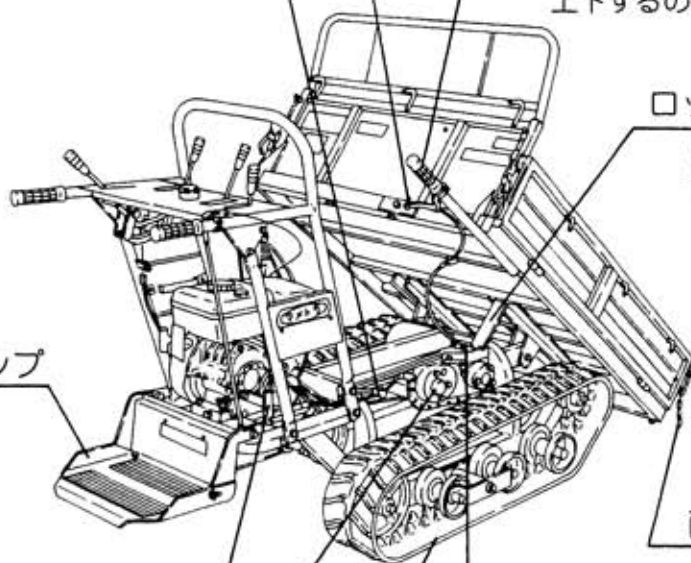
ガイドアームの孔に差し込んで、荷台を任意の位置で固定します。

### ステップ

### ステップ収納フック

### 変速ミッション

### ゴムクローラ



## 4 運転開始前の準備と注意



### 警告

- ★点検、整備のときは、必ずエンジンは、停止してください。
- ★エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。
- ★燃料を補給するときは、火気を絶対に近付けないでください。
- ★取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

●次の順番で点検と処置をおこなって、快適で安全な作業をおこないましょう。

#### ①燃料の補給

燃料タンクに必要なして十分な燃料を入れてください。

#### ②始動の前に、エンジンオイル、ミッションオイルの油量を確かめて、エンジンオイル、ミッションオイル（90番）を規定量まで補給してください。冬期間、寒冷地等で、リコイルスタータが重く、始動が困難なときは、エンジンオイル（10番）を使用してください。但し、夏期間は必ず（20番）または（30番）のエンジンオイルに戻してください。

[補給・点検の方法は、7-2（P25）、7-3（P26）参照]

#### ③エアクリーナが汚れているときは、洗浄してください。

[方法は、7-4（P26）参照]

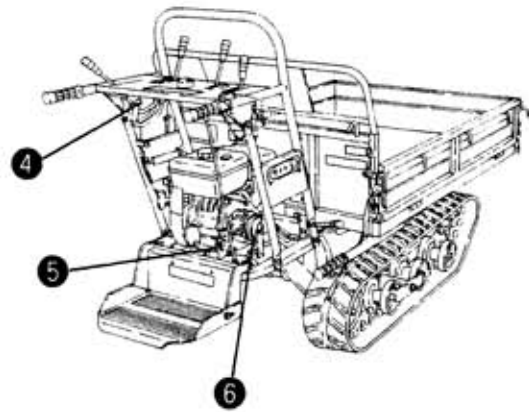
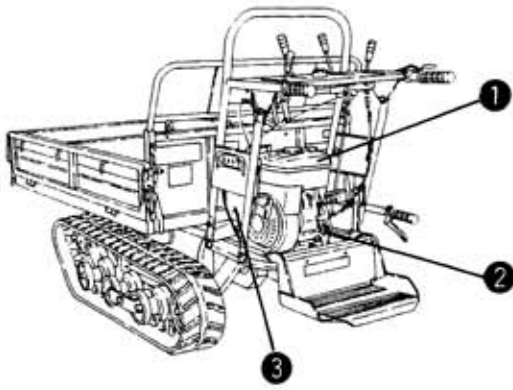
#### ④全てのワイヤやレバー等の支点や回動部に注油をしたり、グリースアップして、円滑に作動するようにしてください。

#### ⑤エンジンの締付けボルト、ハンドルの取付ボルト、クローラの遊動調整輪の取付ボルト等重要なボルトは増締めしてください。

#### ⑥ベルトの摩耗や損傷並びにゆるみがあれば、調節や交換をしてください。

[方法は、7-8（P30）参照]

〔運転前の準備と点検〕



① 燃料の補給



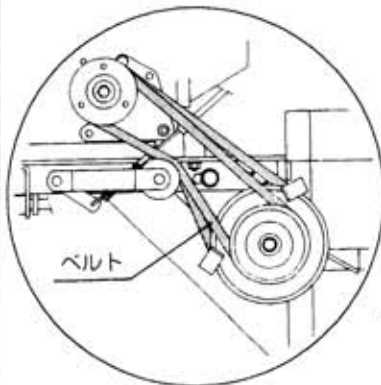
② エンジンオイル  
ミッションオイル点検



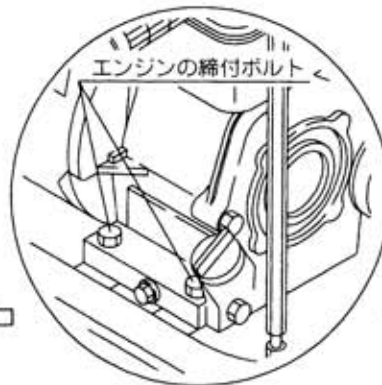
③ エアクリーナ点検



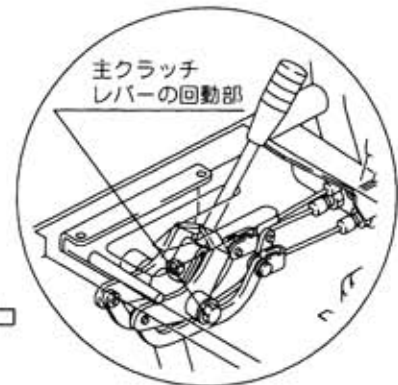
⑥ ベルトの点検



⑤ ボルトの点検



④ ワイヤ等の注油



## 5 さあ、運転開始です



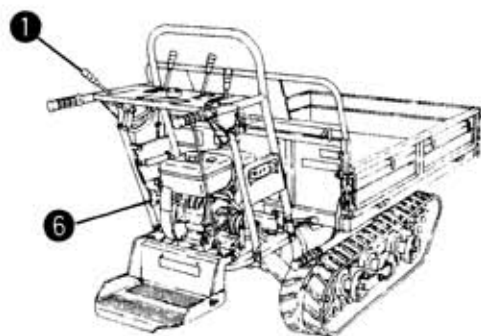
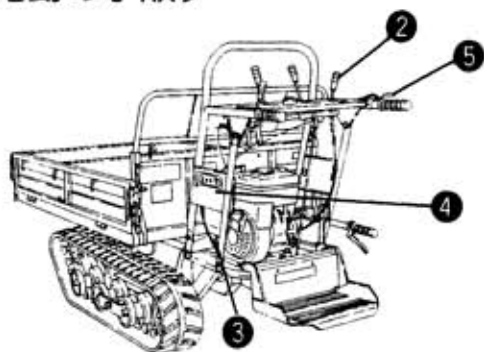
### 警告

- ★周囲の安全を確かめて、発進してください。
- ★坂道や凸凹、カーブの多い圃場では、高速運転はしないでください。
- ★傾斜地では、変速はしないでください。
- ★クローラカートの前方、側方には人を近付けしないでください。
- ★運転中は、高圧線や点火プラグキャップ部に触れると、電気ショックを受ける危険があります。

### 5-1 エンジン始動のしかた

- ① 主クラッチレバーは [切] 位置にしてください。
- ② 変速レバーを [中立] 位置にしてください。
- ③ 燃料コックを開いてください。
- ④ チョークレバーを左に移動してチョークを閉じてください。  
(夏期間やエンジンが暖かいときは、チョークを作動させる必要はありません。)
- ⑤ スロットルレバーを [高(H)] と [低(L)] の中間 (S) の位置にしてください。  
(スロットルが1/2開くこととなります。)
- ⑥ リコイルスタータを圧縮のあるところまで軽く引き、一旦戻してから勢いよく引っ張り、エンジンが始動したらチョークを徐々に元の位置に戻します。(リコイルスタータを1~2回操作しても始動しないとき、そのまま何回も引っ張っていると、燃料の吸いすぎとなり、始動が更に困難となりますので、チョークを元の位置に戻して、リコイルスタータを引っ張ってください)
- ⑦ エンジンが始動したら、負荷をかけずにエンジンをかけたまま、5分暖気運転をしてください。

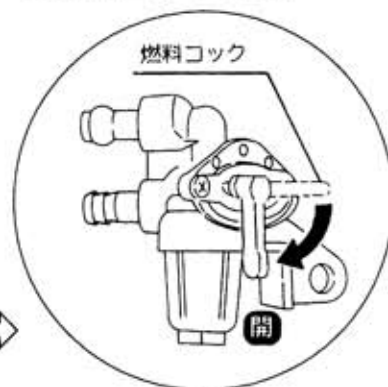
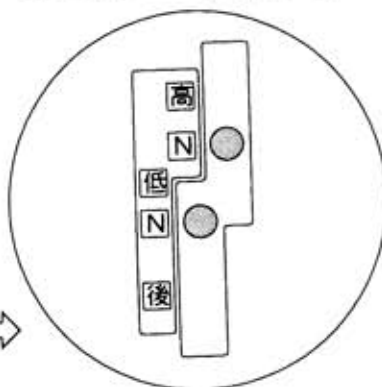
〔始動の手順〕



①主クラッチレバー [切]

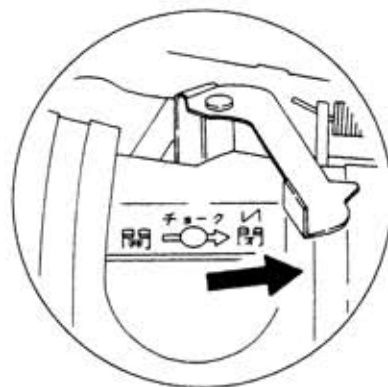
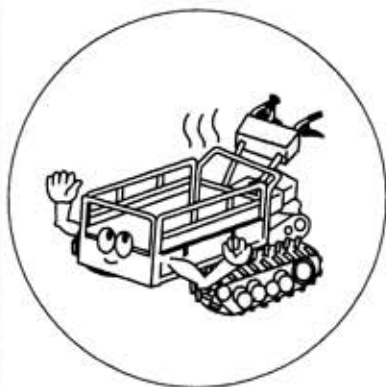
②変速レバー [中立] N

③燃料コック [開]



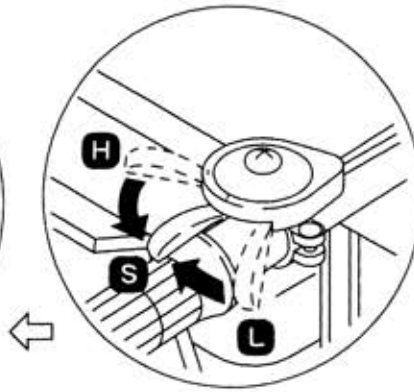
⑦暖気運転をしてね

④チョーク [閉]



⑥リコイルスタータを引く

⑤スロットルレバー [S]





# 5 さあ、運転開始です

## 5-2 発進のしかた

---



警告

- ★発進するときは、他の人を本機に近付けてはいけません。
- ★本機の周りに物を置かないでください。

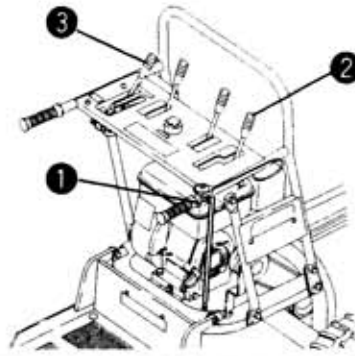
- ① スロットルレバーでエンジンの回転を少し上げてください。
- ② 変速レバーを希望の速度にしてください。
- ③ 主クラッチレバーを〔低速、高速〕位置で前方へ徐々に〔入〕位置にして、ゆっくり発進します。

## 5-3 変速のしかた

---

- ① 主クラッチレバーを〔切〕位置にしてください。
- ② 変速レバーを操作して、希望の速度にしてください。（変速レバーが入りにくいときは、ギヤの噛合いの位置が悪いためですから、無理に入れずに、主クラッチレバーを半クラッチの状態にしてください。無理に入れようとすると、故障の原因になります）
- ③ 主クラッチレバーを徐々に〔入〕位置にして、ゆっくり発進します。

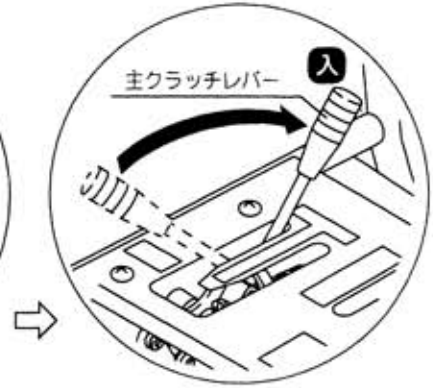
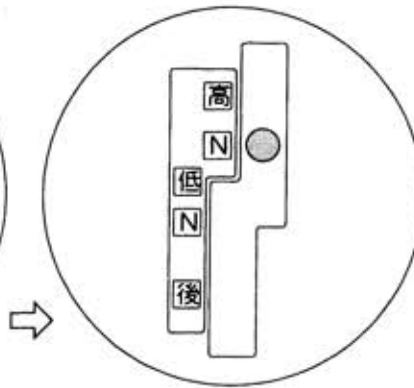
〔発進の手順〕



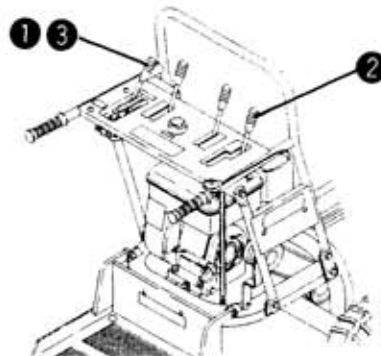
①エンジンの回転を上げる

②希望の速度にする

③主クラッチレバーを〔入〕



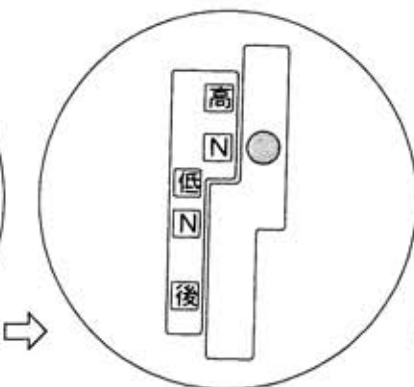
〔変速の手順〕



①主クラッチレバー〔切〕

②変速レバー（希望速度）

③主クラッチレバーを〔入〕



## 5 さあ、運転開始です

### 5-4 旋回のしかた



警告

★坂道では、操向クラッチレバーを操作しないでください。

- ① 旋回したい側の操向クラッチレバーを、ゆっくりと【切】の位置まで引いて旋回してください。  
右の操向クラッチレバーを握ると、右に旋回します。  
左の操向クラッチレバーを握ると、左に旋回します。
- ② 旋回するときは、可能な限り走行速度を落としてください。
- ③ 旋回が終わったら、操向クラッチレバーから手を離すと、直進のモードに復帰します。

### 5-5 駐・停車のしかた



警告

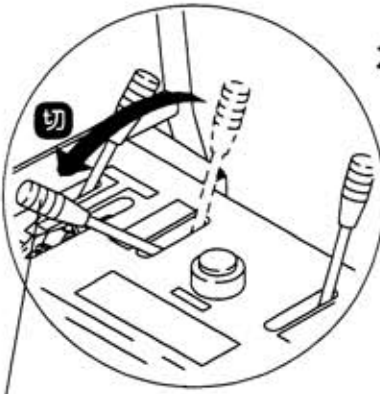
★機体から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。

- ① 主クラッチレバーを【切】位置にしてください。  
自動的にブレーキが掛ります。
- ② 変速レバーを【中立(N)】位置にしてください。
- ③ 坂道や傾斜地では、安全のために車止めをクローラの前後に置いてください。

〔旋回の手順〕

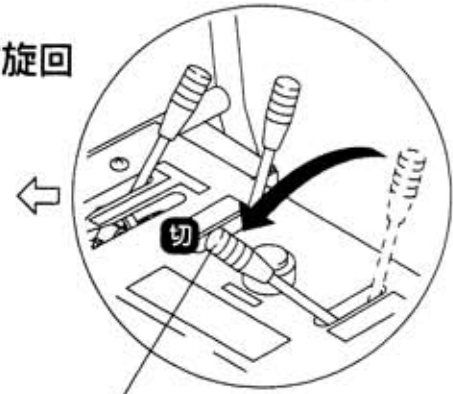
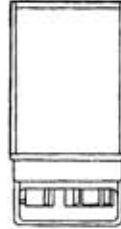
左操向クラッチを〔切〕

右操向クラッチを〔切〕



左旋回

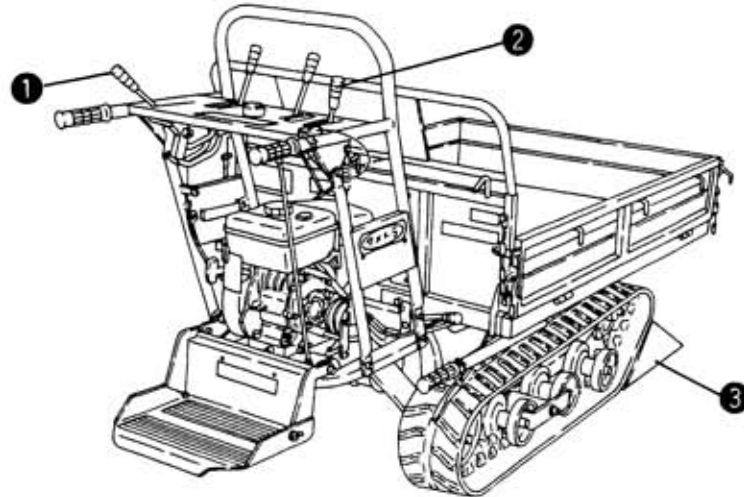
右旋回



左操向クラッチレバー

右操向クラッチレバー

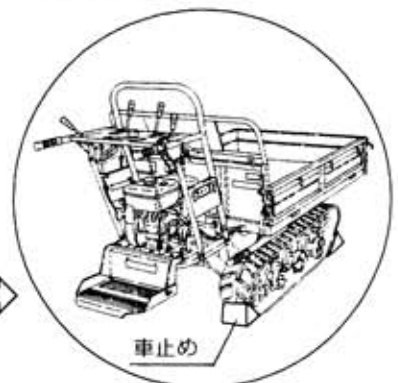
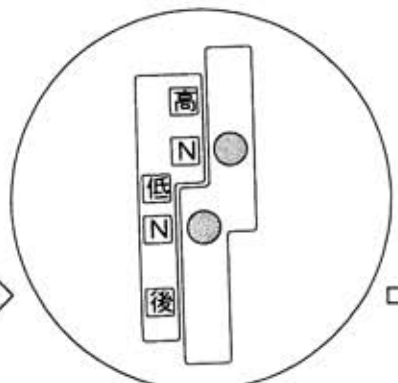
〔駐車の手順〕



①主クラッチレバーを〔切〕

②変速レバーを〔中立〕N

③車止め



# 5 さあ、運転開始です

## 5-6 エンジンの停止

- ① 主クラッチレバーを [切] 位置にしてください。
- ② 変速レバーを [中立 (N)] 位置にしてください。
- ③ スロットルレバーを [低 (L)] 位置にしてください。
- ④ 燃料コックを [閉] 位置にしてください。
- ⑤ エンジンが止まるまで、停止ボタンを押してください。
- ⑥ リコイルスタータをゆっくり引いて、重たくなる位置 (圧縮位置) で止めてください。



警告

★エンジン緊急停止ボタンを押せば、エンジンは止まりますが、通常は必ず上の手順にしたがって、エンジンを停止してください。

## 5-7 トラック等への積み込みと積み降しのしかた



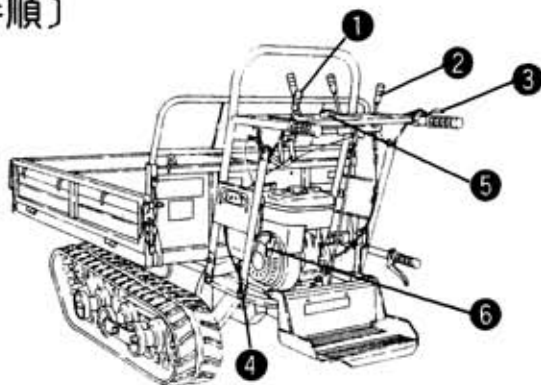
危険

★あゆみ板の上では絶対に、主クラッチレバー、変速レバー、操向クラッチレバーを操作しないでください。転倒、転落の危険があります。

★荷台に荷物を乗せたまま、積み込み、積み降しをしてはいけません。

- ① 平坦で安全な場所を選び、トラックは動かないようエンジンを止めて、ギヤを入れて、サイドブレーキを引き、車止めをしてください。
- ② あゆみ板 (ブリッジ) は、クローラの幅よりも広く、丈夫で、長い板を使用し、ゆるい勾配にして、ゆっくり積み込んでください。積み降しも同じ要領です。

〔エンジン停止の手順〕



①主クラッチレバー [切]



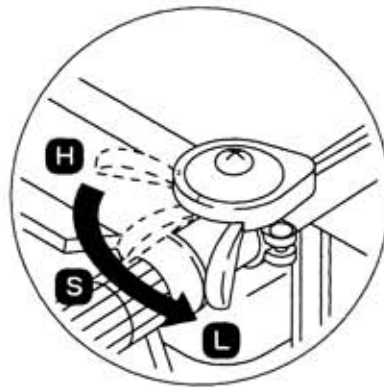
②変速レバー [中立] N



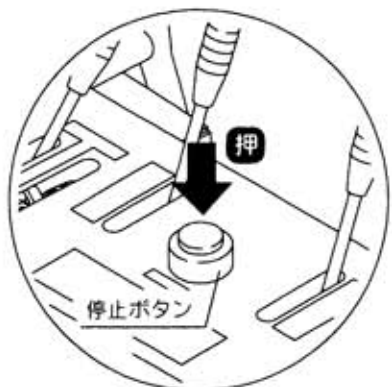
⑥リコイルスタータを引く



③スロットルレバー [低]



⑤停止ボタン [押]



④燃料コック [閉]



## 5 さあ、運転開始です

### 5-8 ステップの取扱

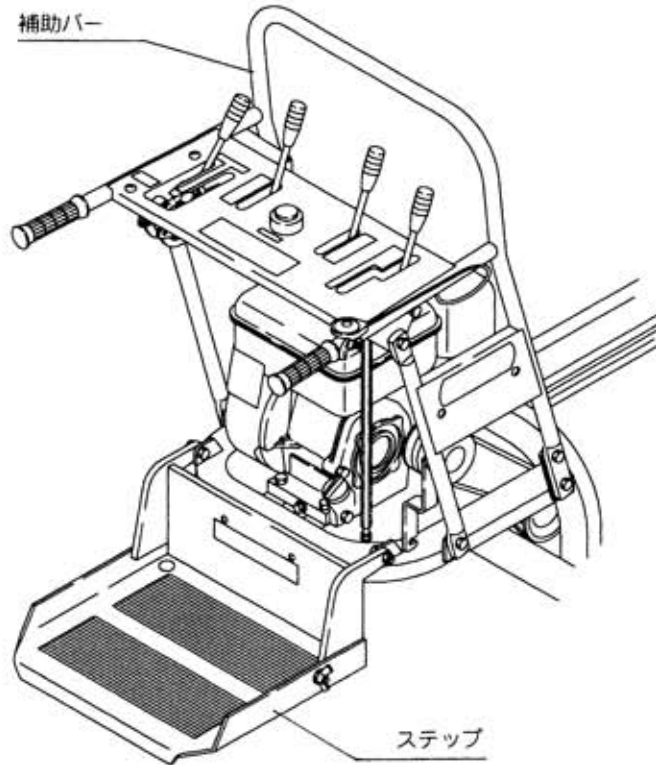


**危険**

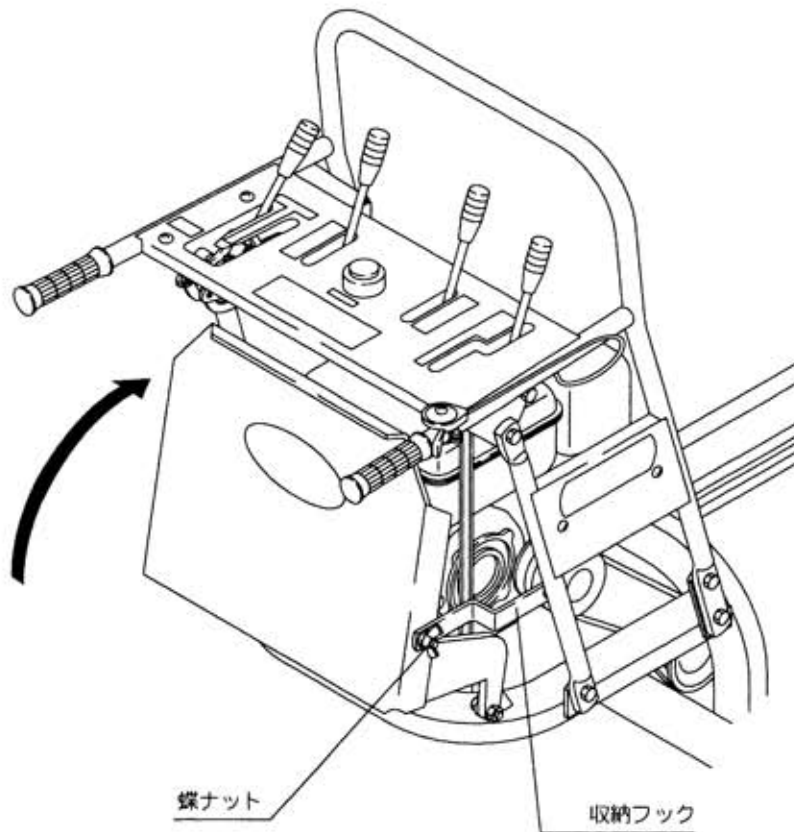
- ★路上での乗用は禁止されています。
- ★急傾斜地での乗用は危険ですので行わないでください。
- ★乗車したままでの旋回は危険です。一旦、降りて旋回してください。

- ① 乗用時はハンドル前方の補助バーをつかみ、体勢を保持してください。
- ② ステップの収納は、ステップを持ち上げ、ハンドル右側の収納フックで固定します。
- ③ 振動でフックが外れないように、蝶ナットでしっかり止めてください。

補助バー



ステップ



蝶ナット

収納フック



## 6 荷台の取扱



### 警告

- ★適正な荷重以上は積まないでください。
- ★積荷の重心は、荷台の中心と一致するように心掛けてください。
- ★積荷を重く積みすぎると重心が高くなり、転倒の危険があります。
- ★積荷の降し作業は、必ずエンジンを停止しておこなってください。

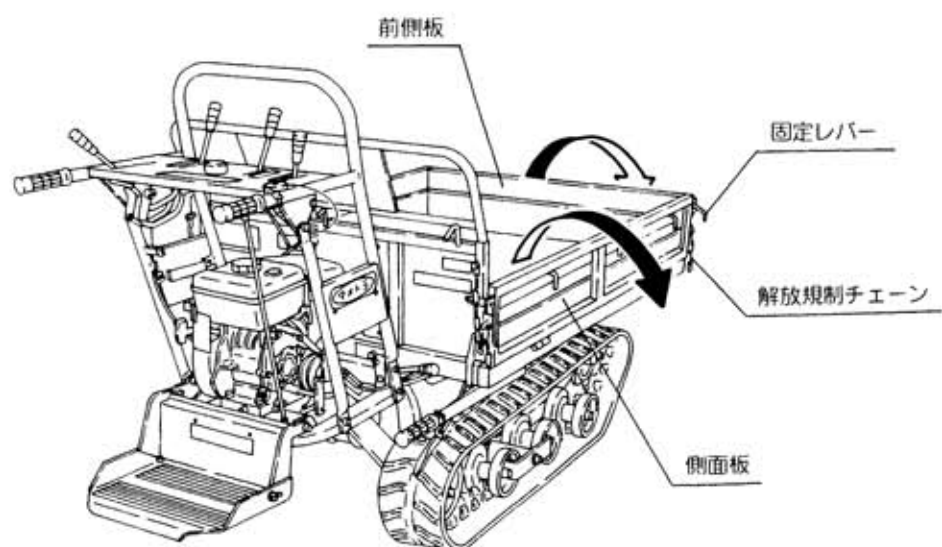
### 6-1 荷台の拡張

- ① 荷台の左右の側板及び前面板の固定レバーを操作して、側板及び前面板を解放することができます。
- ② 解放規制チェーンの長さを調節して側板、及び前面板の解放の角度を調整することもできます。積荷の形状、大きさによって調節してください。
- ③ 前面板を立てた状態で側板を開く場合は、附属品のコティピンを使用し、前面板と荷台本体を固定してください。

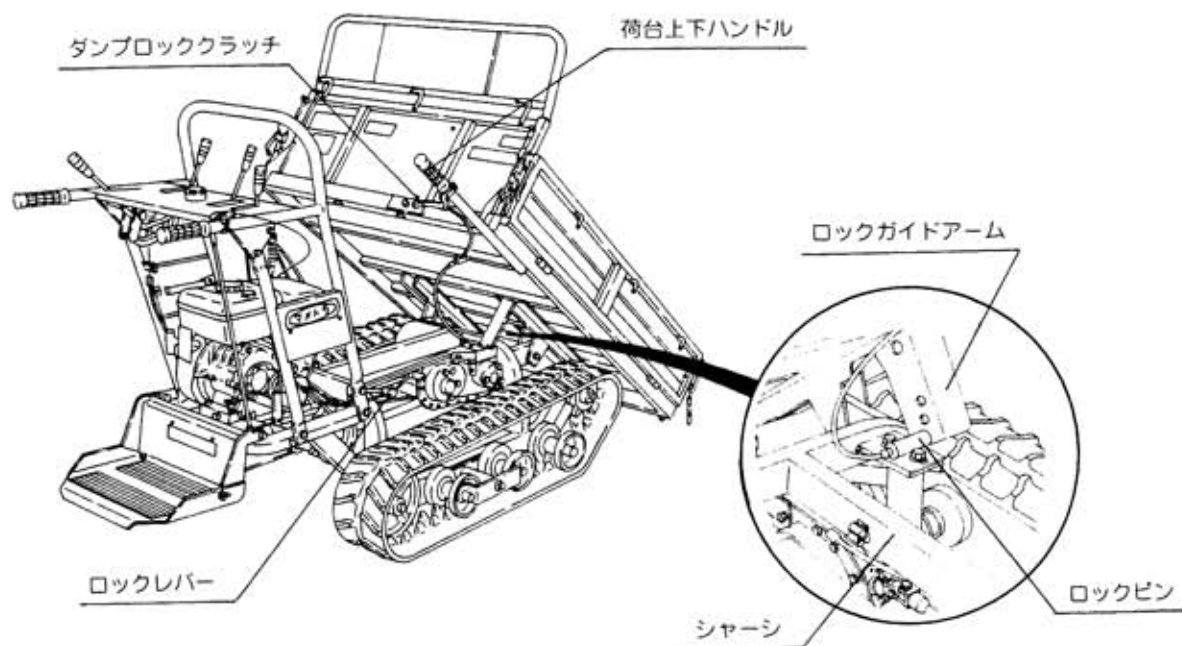
### 6-2 荷台の上下

- ① ロックレバーを右に倒して、荷台とシャーシとの固定を解除してください。
- ② ダンプロッククラッチを握って、荷台の裏側にあるロックガイドアームからロックピンを外してください。
- ③ 荷台上下ハンドルを手で上下して、ロックガイドアームに3段階になっている任意の位置で、ダンプロッククラッチを離してください。希望する傾斜角度で、荷台を固定することができます。
- ④ 荷台を水平位置に戻すときは、ダンプロッククラッチを握って、ロックガイドアームからロックピンを外して、荷台上下ハンドルを手で下ろしてください。ロックレバーのフックが確実に掛かっているか確認してください。

### 〔荷台の拡張〕



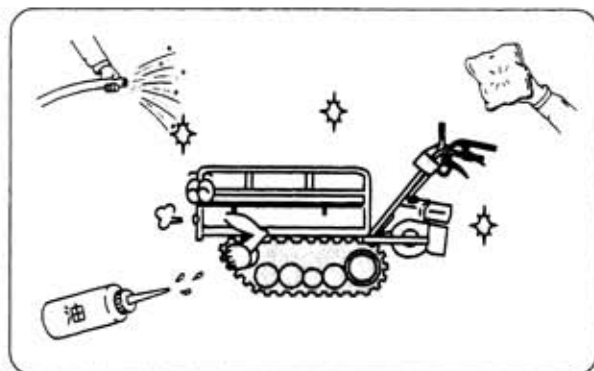
### 〔荷台上下の手順〕



# 7 作業が終わったら、必ず手入れを

## 7-1 作業したら、そのたびに手入れを

- ① その日の内に水洗いをして、水洗い後はよく水分を拭き取ってください。
- ② ワイヤ、レバー等の回転部、摺動部に注油してください。



## 7-2 定期点検と整備



警告

★定期点検をおこたると、機械が故障したり安全性を損ないます。

### 点検・整備表

(一般的な使用条件の下での点検・整備の項目とその時期をまとめておきます)

点検・整備の項目	点検・整備時間				
	作業時毎	20時間毎	50時間毎	100時間毎	随時
●エンジンオイルの点検と補給	○				○
●エンジンオイルの交換		▲	○		
●ミッションオイルの交換		▲		○	
●エアクリーナの清掃		○			○
●ストレーナの掃除					○
●点火プラグの調節と交換				○	○
●レバー類の作動と点検	○				
●ベルトの点検と調整		○			○
●作動部への注油等	○				
●ボルト、ナットの点検	○				
●クローラの点検と調整		○			○

注：▲印は、第1回目の交換時間の目安

## (1) エンジンオイルの点検・補給

- ① オイルゲージを取外してください。
- ② きれいな布でゲージに付いている油を拭き取り、もう1度給油口に差し込み、油の量を確認してください。
- ③ 油の量が不足していたら、給油口から規定のエンジンオイルを静かに注入してください。

## (2) エンジンオイルの交換



### 注意

- ★排出するエンジンオイルで火傷をしないように注意してください。
- ★必ず規定のエンジンオイルを使用してください。
- ★初回は、少なくとも20時間機械を使用したらオイルを交換してください。

### ○使用オイル

SC級、SD級、SE級の良質の新しいオイルを使用してください。

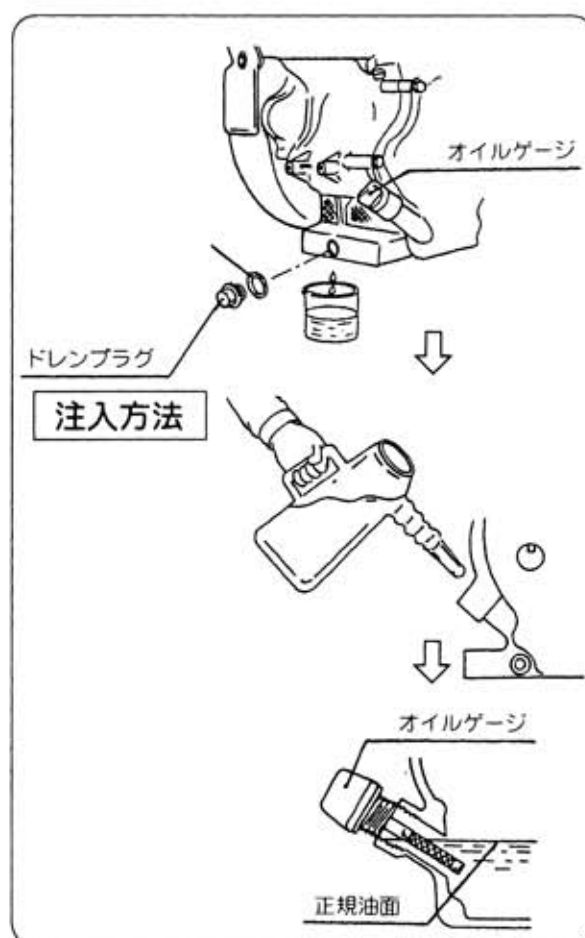
夏期間～SAE-30、SAE10W-30、SAE10W-40

冬期間～SAE-20、SAE10W-30

### ○使用オイルの量

0.7ℓを目安としてください。

- ① エンジンクランク室の給油口のプラグを外してください。
- ② ドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出してください。  
(エンジンが暖かい内に抜取ると作業が容易にできます)  
(クローラの前部に5～7cmの板を敷いて後方を低くすると、オイルが抜けやすくなります)
- ③ 汚れたオイルが完全に無くなったら、ドレンプラグを確実に締付けてください。
- ④ エンジンオイルを給油口からゆっくりと流し込んでください。
- ⑤ 時々給油口にオイルゲージを差込んで、オイルの量を確認してください。オイルゲージの上限と下限の間にオイルが付いていれば、規定量と考えてください。
- ⑥ 給油プラグを確実に締付けてください。



## 7 作業が終わったら、必ず手入れを

### (3) ミッションオイルの交換



**注意**

- ★必ず規定のエンジンオイルを使用してください。
- ★初回は、少なくとも20時間機械を使用したらオイルを交換してください。
- 2回目以降は、1年(100~200時間)ごと。

- ① トランスミッションの給油口のプラグを外してください。
- ② ドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出してください。  
(オイルが暖かい内に抜き取ると作業が容易にできます)  
(クローラの前部に5~7cmの板を敷いて後方を低くすると、オイルが抜けやすくなります)
- ③ 汚れたオイルが完全になくなったら、ドレンプラグを確実に締付けてください。
- ④ 給油口からミッションオイルSAE90番をゆっくりと流し込んでください。
- ⑤ 機体を水平に戻して、給油口からオイルがトランスミッションの底部の半分ぐらいまで満たされているのが確認できます。これが規定量です。(2.2ℓ)
- ⑥ 給油プラグを確実にめ込んでください。

### (4) エアクリーナの手入れ

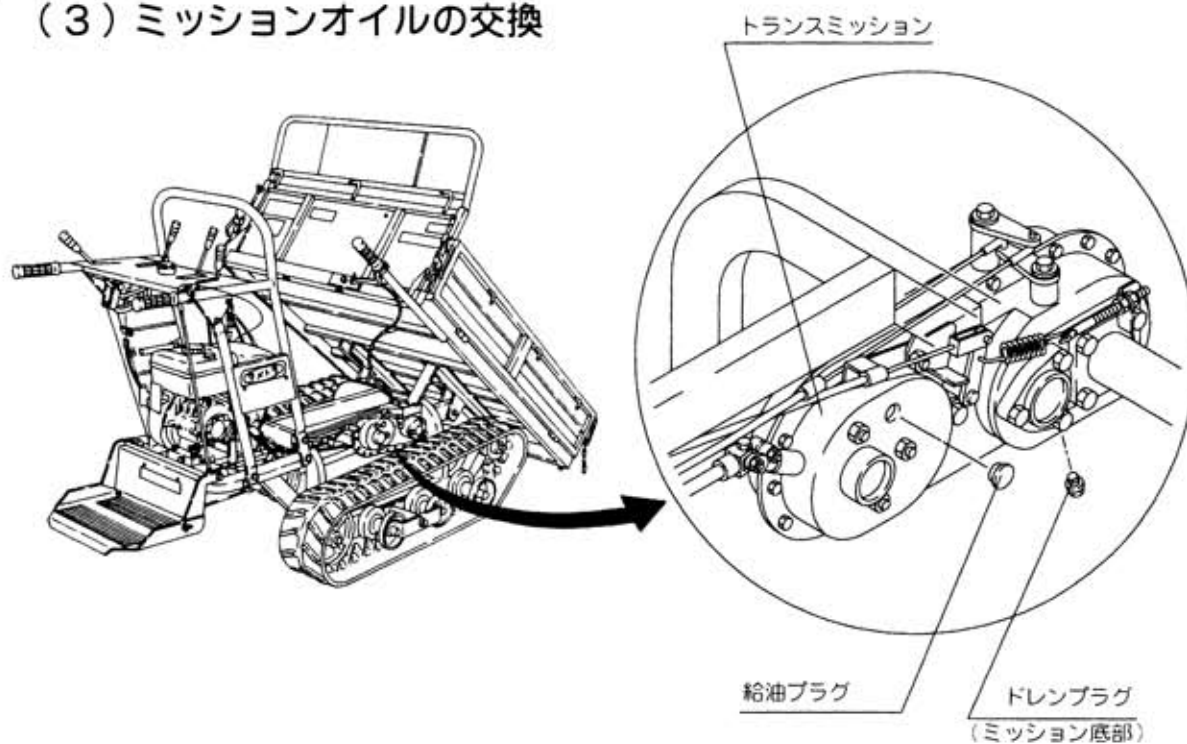


**注意**

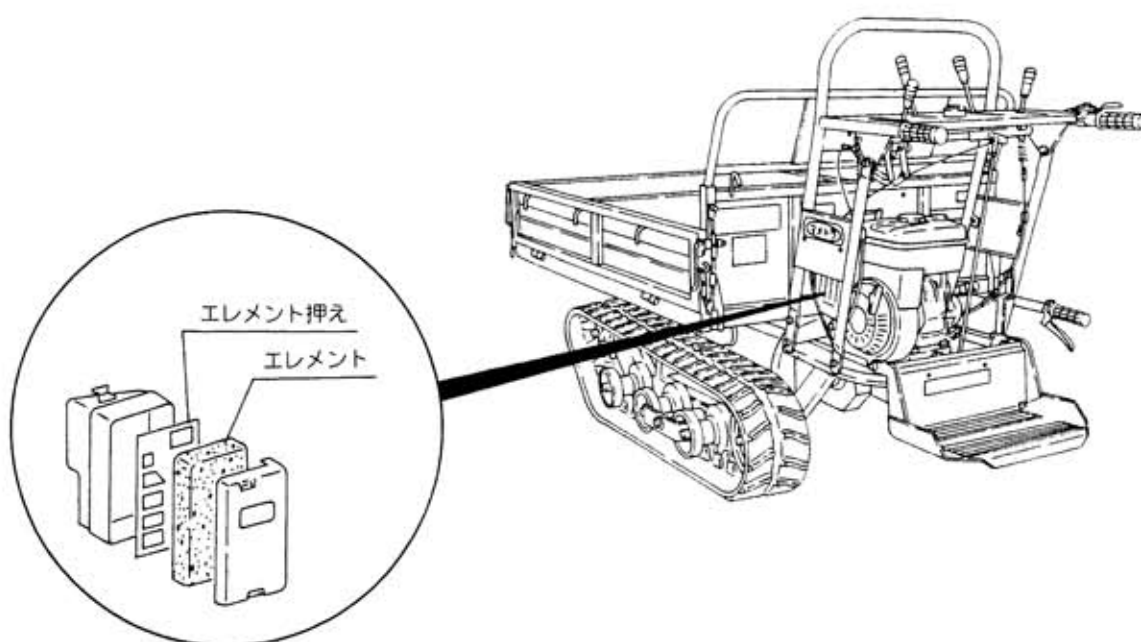
- ★洗浄するときには、エレメントを強く引っ張ったり揉んだりしないでください。  
エレメントが破れます。
- ★エレメントが汚れたまま使用すると、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

- ① グリップを外し、カバーを取外してください。
- ② カートリッジからエレメントを外してください。
- ③ エレメントを石鹼水、又はガソリン4に対してオイル1の混合油で洗ってください。
- ④ エレメントを絞って、乾いたきれいな布で水気を取ってください。
- ⑤ エンジンオイルを染み込ませ、吸引力のある布で包み、余分なオイルを拭き取ってください。
- ⑥ カートリッジに取り付け、カバーを正しく取り付けてください。

### (3) ミッションオイルの交換



### (4) エアクリーナの手入れ



## 7 作業が終わったら、必ず手入れを

### (5) 点火プラグの調節と交換



**注意**

★点火プラグの火花間隔は、0.6~0.7mmが適正です。

★点火プラグの規格

NGK-BP-5ES、DENSO-W16EP、CHAMPION-N11YC

- ① エンジンの調子が悪いときには、点火プラグに原因があることもあります。プラグを抜いて、火花間隔を調整してみてください。
- ② 調整が終わったら、点火プラグを元の位置に差込み、プラグキャップを確実に差込んでください。

### (6) ストレーナの手入れ



**注意**

★ストレーナに、異常に水やゴミが多いときは、新しい燃料に交換してください。

- ① 燃料コックレバーを〔閉〕位置にしてください。
- ② ストレーナカップを取外して、底に沈殿しているゴミや水を抜き取ってください。

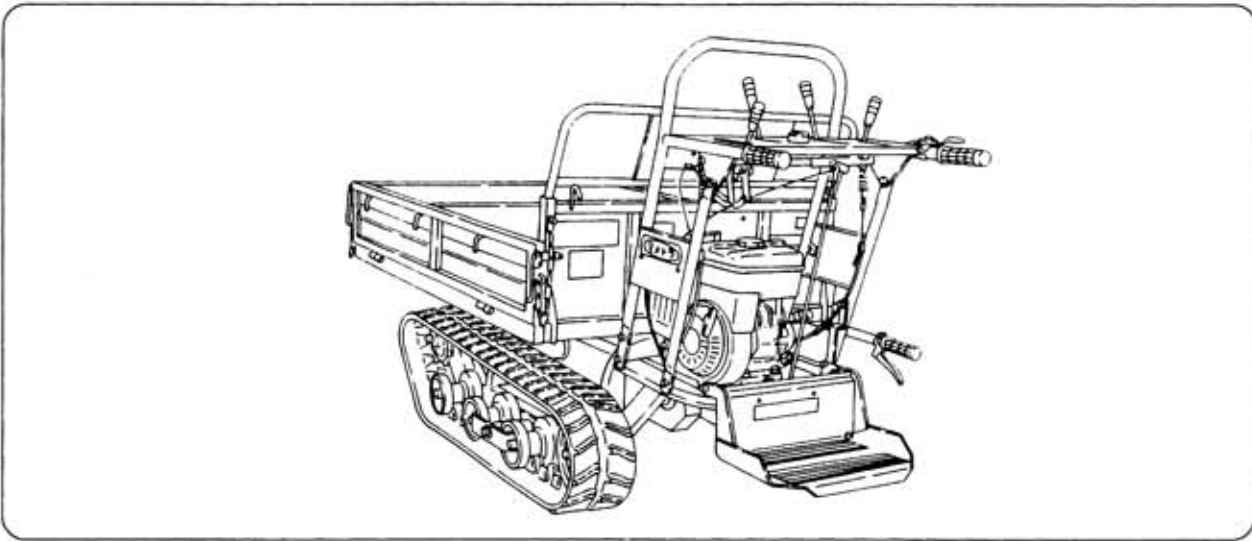
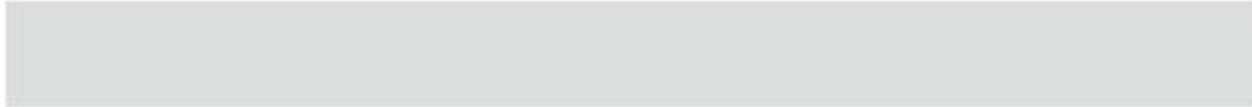
### (7) 燃料パイプの交換



**注意**

★燃料パイプに傷等があると、ガソリンが洩れて火災を起こすことがあります。

- ① 自然劣化したり、傷等のあるパイプは早めに交換してください。



(5) 点火プラグの点検

(6) ストレーナの手入れ

(7) 燃料パイプの交換





## 7 作業が終わったら、必ず手入れを

### (8) レバー類作動の点検と調整



注意

★レバー類を調整したら、必ずこれらが確実に作動するかを確認してください。  
★点検・調整のために取外したカバー類、ボルト・ナット類は必ず元の位置に取付けてください。

#### 1) 主クラッチレバーとベルトの調整

主クラッチレバーはテンションプリー及びブレーキと連動されています。

主クラッチレバーを前に倒すと【低速】または【高速】のベルトクラッチが【入】ります。

主クラッチレバーを手前に引くとクラッチは【切】れます。

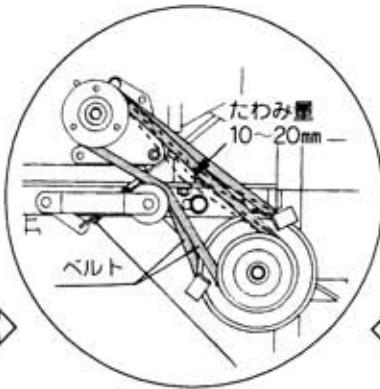
- ① エンジンベルトカバーを取外してください。
- ② 主クラッチレバーを【低速】位置にしてクラッチを【入】ください。
- ③ ベルトの中央を指で軽く押さえて、ベルトのたわみ量が10~20mmになるようにレバー側のワイヤ調節ナットで調整をしてください。
- ④ 主クラッチレバーを【高速】位置にして【低速】位置における調整と同様の調整を行ってください。
- ⑤ ワイヤの調整だけでは不完全な場合は、エンジンのボルトをゆるめ、エンジンの位置を調整してください。調整が終わりましたらエンジンのボルトは確実に締めてください。
- ⑥ ベルトの摩耗が著しいときや破損しているときは、ベルトを交換してください。交換するときは低速側、高速側ベルトを両方共、交換してください。  
低速側ベルト LB (SB) -34 1本  
高速側ベルト LB (SB) -31 1本
- ⑦ 調整が終わったらベルトカバーを必ず取付けてください。

## 〔ベルトの調整〕

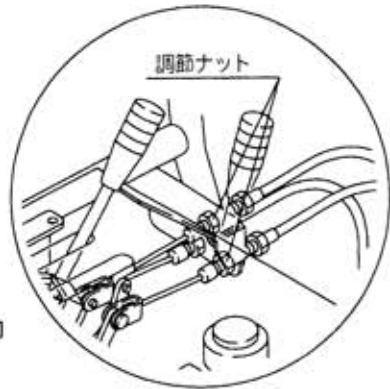
②④主クラッチレバー〔入〕



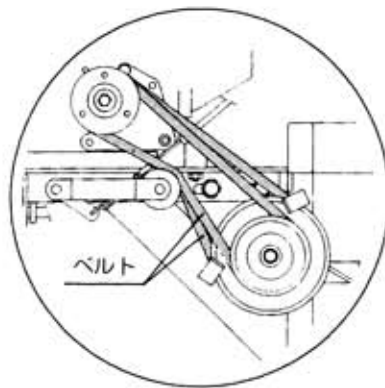
③ベルトの調整



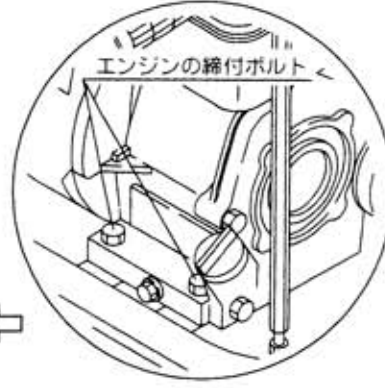
③クラッチワイヤの調整



⑥ベルトの交換



⑤エンジン位置の調整



## 7 作業が終わったら、必ず手入れを

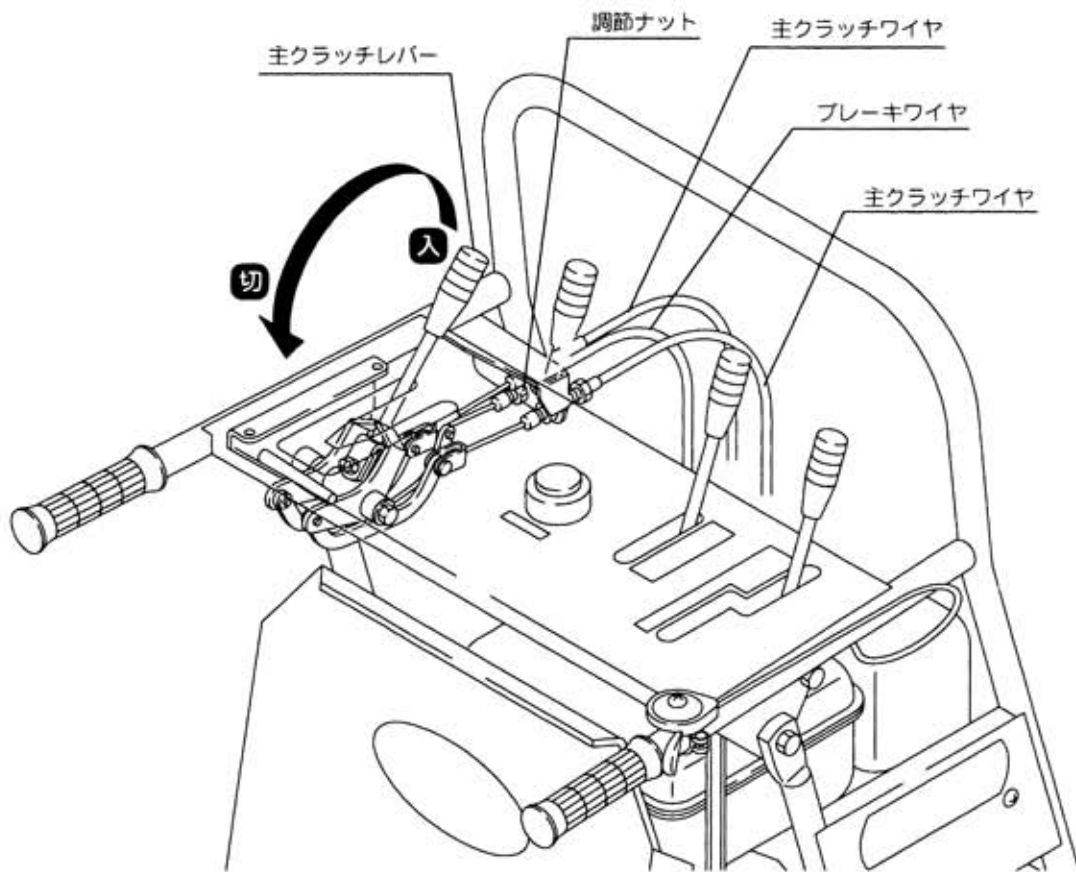
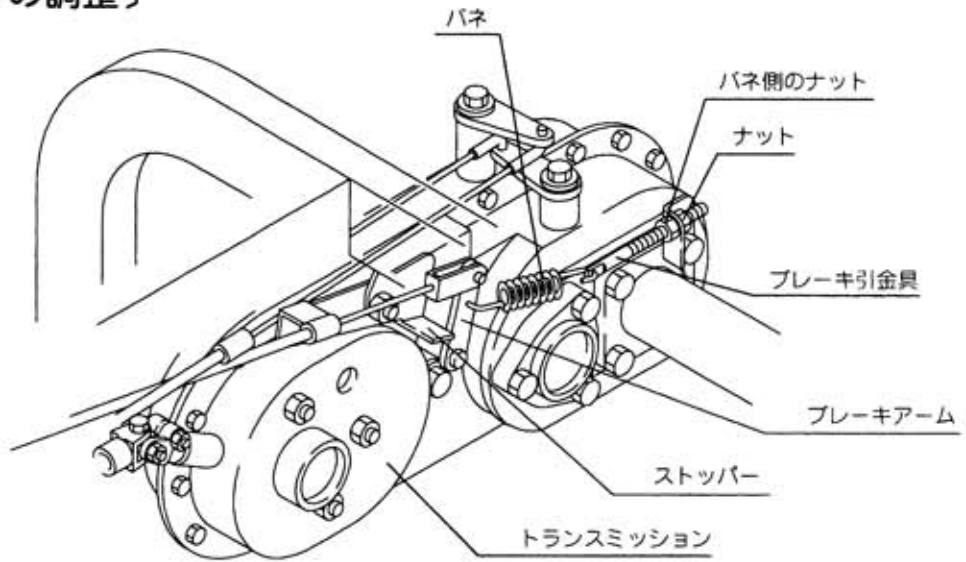
### 2) 主クラッチレバーとブレーキの調整

主クラッチレバーを手前に引いた【切】の位置でブレーキが掛ります。

【入】の位置ではブレーキは解除されます。

- ① ブレーキの利きが悪いときはトランスミッション右側のブレーキ引金具のバネ側のナットをゆるめ、反対側のナットを1~2回転締め上げてバネを張ってください。
- ② 主クラッチレバーを【入】位置にしてブレーキアームがストッパーに当るのを確認してください。すき間が残る場合は、ブレーキワイヤの調節ナットで調整してください。

# 〔ブレーキの調整〕



## 7 作業が終わったら、必ず手入れを

### 3) 操向クラッチの調整

- ① 操向クラッチが確実に【入】【切】ができるように、操向クラッチワイヤの調節ナットで調整してください。

### (9) 注油とグリースアップ

- ① レバー類、軸受部、開閉カバーのリンク部等の作動部には、油差しで注油してください。
- ② 全てのワイヤは、ワイヤを作動させながら、注油をしてください。
- ③ クローラの転輪等グリースニップルを取り付けてあるところは、グリースポンプでグリースの補給をしてください。

### (10) クローラの履帯の張りの調整

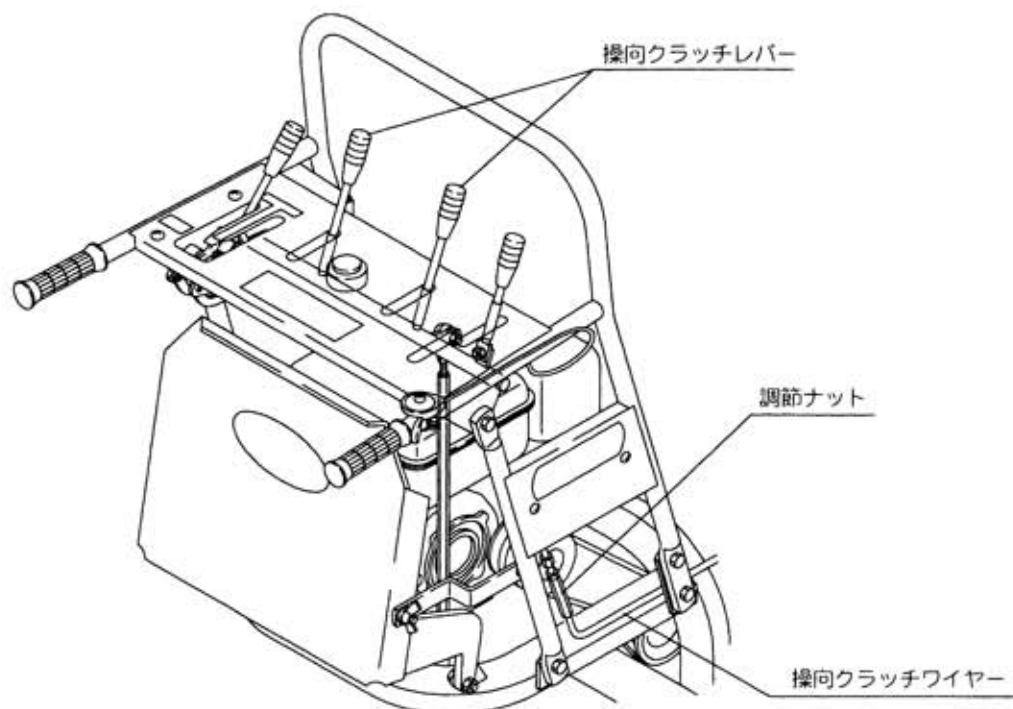


**注意**

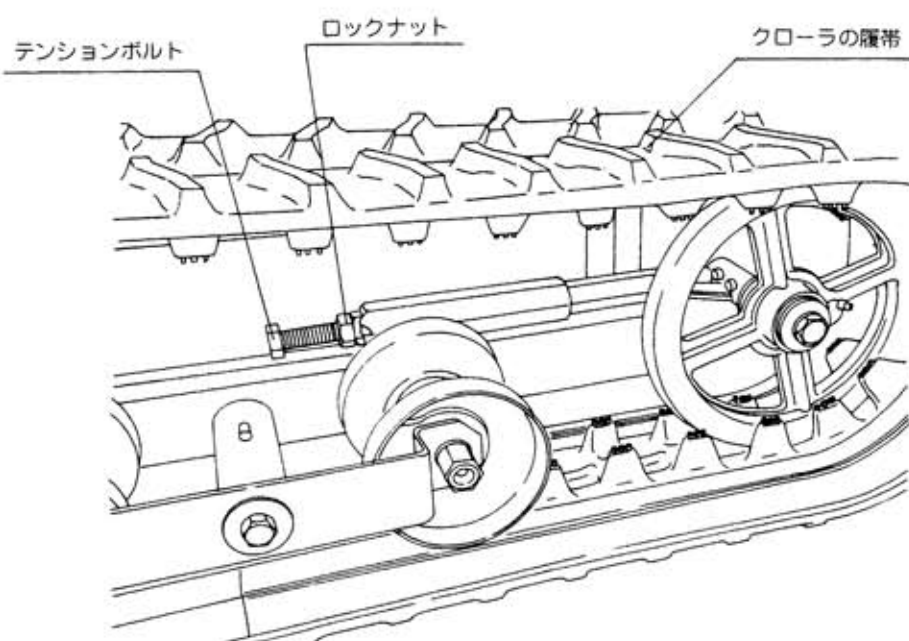
- ★テンションボルト締め込みは、左右均等におこなってください。
- ★調節後には、ロックナットを締め込んでください。

- ① クローラの履帯がゆるんだときは、ロックナットをゆるめ、テンションボルトを締め込んで張りの調整をしてください。

### 3) 操向クラッチの調整



### 〔クローラの調整〕



## 8 長期間使用しないときの格納のしかた



警告

★燃料を抜くときは、火気は厳禁です。風通しの良い所で作業してください。

★抜取ったガソリンは、安全な所に保管してください。

### (1) 清掃、洗浄、注油

- ① クローラや荷台等に付着した泥、ゴミ、屑等は、よく落として水洗いし、水洗後は水分をよく拭き取り乾燥してください。
- ② 回転部、摺動部には、たっぷりオイルを差し、グリースアップをしてください。

### (2) 主クラッチレバーとベルト

- ① 主クラッチレバーは【切】位置にして、ベルトに無理な力が加わらないようにしてください。

### (3) オイル交換

- ① オイル交換の時期になっているときは、定期点検の手順にしたがって、オイルの交換をしてください。

### (4) 燃料の抜き取り

- ① 燃料タンクのコック側のホースを外して、燃料容器に燃料を受けて、タンクを完全に空にしてください。
- ② キャブレターのドレーンプラグをゆるめて、燃料を容器に受けてください。  
燃料が完全に抜けたら元に戻してください。
- ③ 燃料ストレーナの中に入っている燃料も空にしてください。

### (5) エンジン

- ① 点火プラグを外し、プラグの穴からエンジンオイル30番を約10cc入れ、リコイルスタータを2～3回引き、プラグを取付けて、リコイルスタータを軽く引き、圧縮のあるところで止めておいてください。

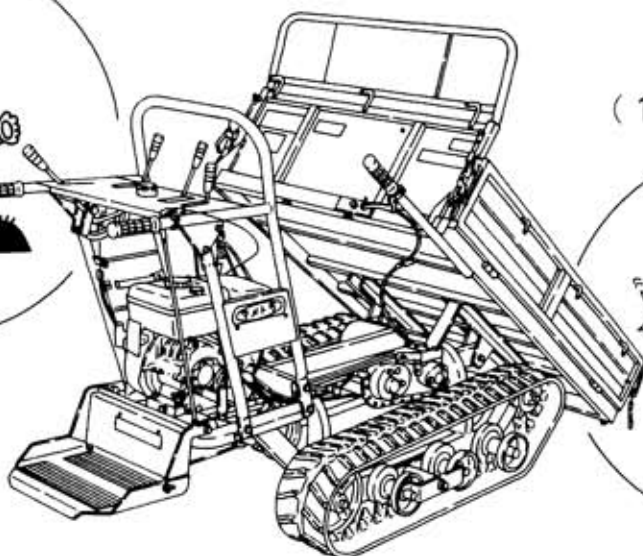
### (6) 格納

- ① クローラの下には、板を敷いてください。

(2) 主クラッチ



(1) 洗浄・注油



(4) 燃料の抜き取り



(5) シリンダにオイルを



(6) 格納





## 9 機械が不調の場合の対策



注意

★エンジンの整備には、特別な工具やエンジンの専門工場でないといけないものがあります。

★使用者が整備できる項目とその対策のみを示しておきます。

### 9-1 エンジンが始動しないとき

- (1) エンジンのスイッチを確認してください。  
→スイッチを [ON] 位置にしてください。
- (2) 燃料を確認してください。  
→燃料を規定量入れてください。
- (3) ストレーナのcockを確認してください。  
→cockを [開] 位置にしてください。
- (4) 燃料が流れているかを確認してください。  
→燃料パイプの詰まりを調べてください。
- (5) 燃料が良好な物かを確認してください。  
→新しい燃料と交換してください。
- (6) 燃料に水が混入していないかを確認してください。  
→ストレーナに水が溜まっていれば、水抜きをしてください。
- (7) 点火プラグを確認してください。
  - ① 点火プラグが乾いているときは  
→燃料がシリンダまで流れていないので、その対策をしてください。
  - ② 点火プラグが濡れているときは  
→燃料の吸い過ぎですので、プラグの湿りを拭き取り、チョークを [開] 位置にして、リコイルスタータを1~2回、又はエレクトリックスタータを1~2秒回して、吸い過ぎた燃料を排出してください。エアクリーナを清掃してください。
  - ③ 点火プラグが不良な場合  
→新しい点火プラグと交換してください。

## 9-2 エンジンの力が弱いとき

---

- (1) エアクリーナを確認してください。  
⇒目詰まりを取るように清掃してください。
- (2) リコイルスタータのエアの入口が詰まっていないかを確認してください。  
⇒目詰まりを取るように清掃してください。
- (3) エンジンオイルを確認してください。  
⇒補充または交換してください。
- (4) ベルトを確認してください。  
⇒ベルトが張り過ぎているので、適正な張りにしてください。
- (5) ブレーキアームの作動を確認してください。  
⇒主クラッチレバーを[入]位置にしたとき、ブレーキが解除されるように調整してください。

## 9-3 クラッチレバーを[入]位置にしても作動しないとき

---

- (1) ワイヤを確認してください。  
⇒ワイヤが伸びている場合が多いので、ワイヤを調整してください。
- (2) ベルトを確認してください。  
⇒ベルトの張りを調整してください。

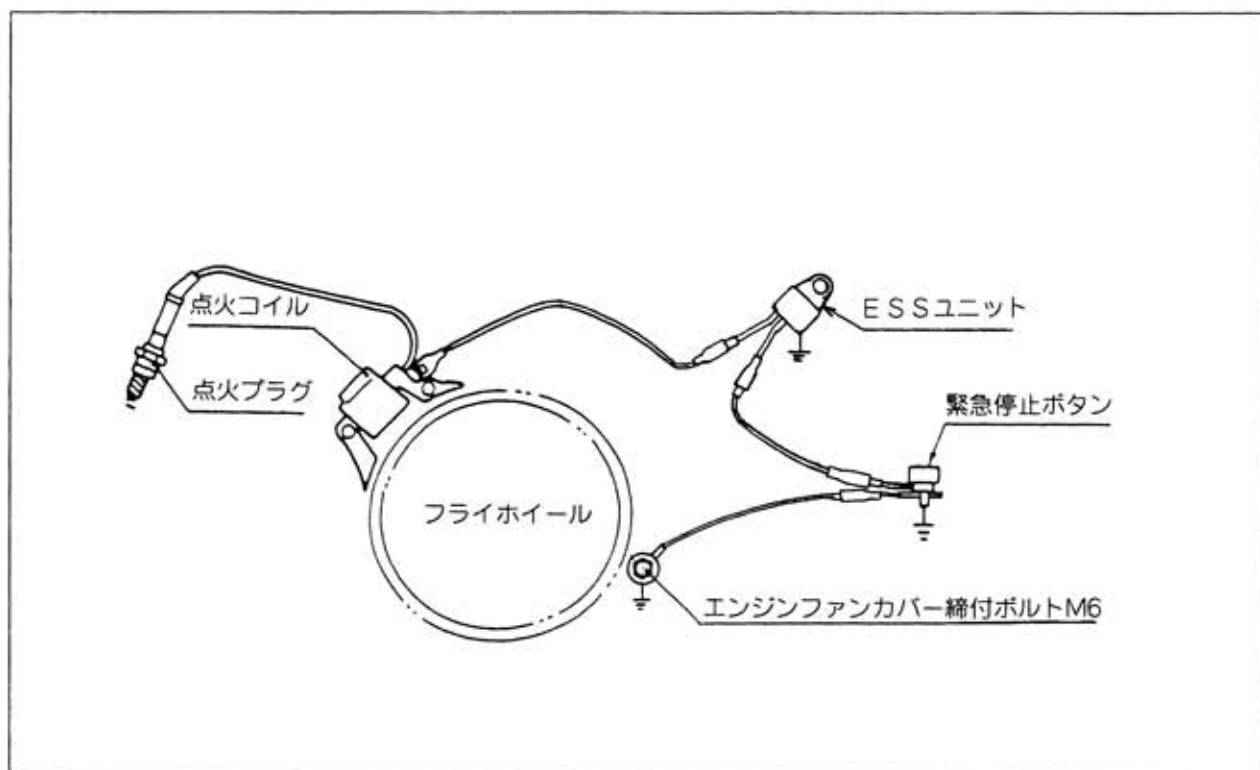
## 10 特 徴

1. ハンドル下に乗用ステップを設け立乗タイプの簡易乗用使用ですので、楽な移動ができます。
2. 操作レバーをハンドルに集中配置してありますので楽々と操作ができます。
3. ミッション位置が前方にあるので機体バランスが非常に良く安全性は抜群です。
4. 広い幅のクローラ又中転輪がスイング方式ですので、振動が大変少なくなっています。
5. 登板力は、最大25° と大変優れています。  
500kgまで積むことができると共に、接地圧は0.24kgf/cm<sup>2</sup>と低く、柔軟な田畑でも楽々と運搬作業ができます。
6. 前面板、側板を開閉できるので、大きな荷物も楽々と積み込むことができます。
7. 荷台ダンプ角を3段階に固定できるため、荷物の積み降ろしが大変楽にできます。
8. ワンタッチでエンジンの停止ができる【緊急停止ボタン】を付けてありますので、より安全な作業が期待できます。
9. 安全作業を考慮して、ブレーキと連動している、主クラッチを採用しています。
10. 前進速度は、1.4~4.7km/hの範囲で、4段階にチェンジできるので、効率の良い作業が可能です。

# 11 仕様

形 式		SC-20WB														
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2010														
	全 幅 (mm)	1040														
	全 高 (mm)	1120														
	重 量 (kg)	235														
走 行 部	形 式	クローラ														
	履 帯 寸 法 (mm)	幅 180	ピッチ 60	リンク数 41												
	接 地 長 さ (mm)	760														
荷 台	ダ ンプ 形 式	手動3段階														
	開 閉 方 式	3方開閉														
	最 大 積 載 量 (kg)	500														
	内 長 (mm)	1220														
	内 幅 (mm)	930														
	内 高 (mm)	200														
エ ン ジ ン	名 称	GB180LN-231														
	型 式	三菱 空冷4サイクル OHV														
	総 排 気 量 (cc)	181														
	最 大 出 力 (PS/rpm)	6.3/2.000														
	定 格 出 力 (PS/rpm)	4.7/1.800														
	使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン														
	タ ン ク 容 量 (ℓ)	3.6														
	始 動 方 式	リコイルスタータ														
車 体	ク ラ ッ チ 方 式	ベルトテンション方式														
	ベ ル ト 寸 法	低 速	高 速	カウンター												
		LB-34	LB-31	LB-59												
	差 動 方 式	爪クラッチ														
変 速 方 式	ギヤ選択方式 (前進2段・後進1段)															
変 速 段 数	Wテンション (前進4段・後進2段)															
走 行 速 度 (km/h)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1速</th> <th>2速</th> <th>後退</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低</td> <td>1.4</td> <td>3.1</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>2.1</td> <td>4.7</td> <td>1.7</td> </tr> </tbody> </table>					1速	2速	後退	低	1.4	3.1	1.1	高	2.1	4.7	1.7
	1速	2速	後退													
低	1.4	3.1	1.1													
高	2.1	4.7	1.7													

## 12 電気配線図



**MEMO**



# マストラ 農機株式会社

本社・工場	☎363-0017	埼玉県橋川市西2丁目9-37	☎048(771)1181(代)	FAX048(771)1529
秋田工場	☎018-0134	秋田県にかほ市象潟町西中野沢字家の下2-3	☎0184(43)4160(代)	FAX0184(43)4120
東北事業部	☎018-0134	秋田県にかほ市象潟町西中野沢字家の下2-3	☎0184(43)4121(代)	FAX0184(43)4120
山形営業所	☎994-0012	山形県天童市大字久野本3920-1	☎023(654)0681	FAX023(654)7387
福島営業所	☎960-0102	福島県福島市鎌田字一里塚1-1	☎0245(53)0885	FAX0245(53)6768
新潟営業所	☎940-1104	新潟県長岡市槻田屋町字崩2617	☎0258(23)1329	FAX0258(23)1354
長野営業所	☎388-8006	長野県長野市篠ノ井御幣川496-6	☎026(293)4888・2693	FAX026(292)0815
茨城営業所	☎310-0853	茨城県水戸市平須町新山1828	☎029(241)3751・3752	FAX029(241)3752
栃木営業所	☎322-0026	栃木県鹿沼市茂呂645-4	☎0289(76)0187	FAX0289(76)0069
群馬営業所	☎379-2105	群馬県前橋市東大室町183	☎027(268)3119	FAX027(268)3862
中部S.S	☎501-6233	岐阜県羽島市竹鼻町飯柄370-1	☎058(393)0041	FAX058(391)3014
マストラ四国機器(株)	☎790-0047	愛媛県松山市余戸町南1丁目23-18	☎089(973)2325	FAX089(971)2563

お客様メモ

購入日 平成 年 月 日

購入店名

G84 9001 001  
4511-03-0030